

小泉ゼミナール（都市地理学）活動報告

「田園都市と港北ニュータウン」「磯子と本牧」フィールドワークを行って」

人間科学部 人間科学科2年 高久さら沙

後期始めの巡検では、たまプラーザ駅、センター北・南駅を回った。事前学習でそれぞれの地域の商業、歴史について知識を入れ実際の地でそれらを確認することができたのでスムーズな理解につながった。今回はゼミメンバーが普段あまり足を踏み入れない地域を巡検の場所として選んだ。だからこそ事前学習の意義を感じることができた。

たまプラーザ駅で電車から降りると上品な高級感のある光景が既に広がっていた。商業施設の中の真ん中に改札口があり、駅とお店が一体化しているため気軽に買い物へ足を運べる。駅直結商業施設「たまプラーザテラス」では家族連れを多く見に受けた。施設内はバリアフリーになっていて道幅も十分に広く作られていた。駅周辺にはさらに東急グループである東急百貨店、イトーヨーカドー、少し歩くと商店街もあり、買い物は全て揃うため利便性がとても高いと感じた。

商業施設を回った後は美しが丘地区へ行った。戦後の課題であった東京の急激な人口膨張を受け、当時の東急電鉄の社長が多摩丘陵の未開発地を舞台に開発を進めた。商業施設を抜けてまず広がったのは長くに連なる集合団地であった。一階、



二階は洗濯物が干されている部屋もあったが、三階、四階に行くにつれ生活感が見受けられず、空き部屋も多いのではないかと印象だった。集合団地を抜けると、どれも立派な一軒家が広がる住宅団地に景色は一変した。住宅地内は歩行者と自動車のルートを分離するラドバーン方式と、居住者以外の車両を抑制するために住宅地内の自動車の通り抜けができないクルドサック方式がとられ、静かな街並みが広がっていた。

たまプラーザ駅は都心へのアクセスが良く、子育てにも優しい住みやすさを感じた。

続いてその日は横浜市営地下鉄ブルーラインを利用し、中川駅で降りセンター北駅に向かって歩いた。高度経済成長期では無秩序な乱開発が行われ、自然破壊が起こった。地域の乱開発を防ぐため、自然を残しつつ、計画的な街づくりが始まってきたのが港北ニュータウンである。公園や小学校が多数あり、子供の声がちらほら聞こえていた。港北ニュータウンの中心に位置しているセンター北駅、センター南駅は横浜市営地下鉄ブルーライン、グリーンラインが通っており、商業、サー



写真：根岸湾漁協が建立した根岸湾埋立記念碑

ビス、文化施設が多く集積していた。「モザイクモール港北」の地上5階には町のシンボルである観覧車乗り場があり、実際に乗ってみた。観覧車からは都筑区の街並みが一望できた。

今回回ったたまプラーザ駅もセンター北駅も家族連れが多く、子供たちの元気な声で賑わっていた。子育てをサポートするような施設が充実しており、すごく密に練られた計画を進めてきたのだなと感じた。現在に至るまで多くの人の努力があり、その成り立ちを知ることが現在を生きる私たちにとってとても大切なことだと理解することが

できた。

巡検二回目は磯子地区の根岸、本牧方面を回った。根岸駅に降りた際、隣の線路にはエネオスのタンク車両が止まっていた。巡検一回目に行った風景とは全く違う雰囲気を感じた。根岸は横浜大空襲による被害や戦後連合軍によって市街地の大部分を接収されていた。横浜市は産業復興のための工業用地を確保するため、国際港都建設総合基幹計画に基づき根岸から杉田にかけ根岸埋め立て工事が始まった。そこから少しずつ復興し、日本の貿易港として活況を取り戻してきた。根岸湾はかつて海苔の養殖として漁業が盛んであった。しかし、根岸湾の埋め立ての建設が決定され漁民との対立が起こった。当時の漁民の人たちの思いが記念碑として根岸駅前に置いてあり、様々な葛藤があったことが分かった。

続いて、横浜市電保存館に行った。建物の入り口には、横浜市電最後のポールが立っていた。そのポールの下の部分には横浜大空襲で受けた弾丸の跡として穴があった。戦争の恐ろしさを感じ、感慨深いものを感じた。横浜市電は戦後すぐ横浜において交通需要を賄うことができたが高度経済成長期の車の普及、市街地の拡大により速達性が失われ、衰退に陥ったと学ぶことができた。

最後に本牧地区を回った。この本牧地区は横浜大空襲により米軍に接収され、兵員の住宅地という目的として使われていた。その後返還され、あ



写真：砲弾跡が残る市電ポール

らたなデザインで街を形成した場所が新本牧地区である。実際に道路を挟んで接収地だった方とそうでない方が隣り合わせの場所を見たが、一目瞭然であるほど接収地だった側は今ではきれいな住宅が並んでいる住宅地になっていた。駅からバスで数分移動した場所に「イオン本牧」があり、ここでお昼休憩をとり、施設の中を回ってみたが、少し賑わいに欠けていたという印象だった。

最後に「三溪園」に行った。三溪園の中にある展望台「松風閣」に上がったが、そこから見える光景は沿岸に連なるたくさんの工場で、その広さ

からここ根岸が周辺地域の産業を支えているのだ
なと感じることができた。三溪園の中にはかつては目の前に海が広がっていたという昔の情景の写真が置いてあり、現在との大きな違いに驚いた。

今期は二カ所の地区を巡検したが双方の地域の
雰囲気は全く別のように感じ、子育て、商業が盛
んで人が多く賑わっていた町と、工場が連なり日
本の産業に大きく貢献している町とどちらもお互
いが支え合って成り立っているのだと思った。ど
ちらが良くてどちらがダメだということではな
く、相互作用な関係性で日本という地域のすばら
しさを改めて感じることができた。これからも
様々な地域を学んでいきたい。



新本牧地区区画整理完了の碑



写真：三溪園「松風閣」より磯子湾を望む